

ひやくり

い

もの

百里を行く者は

ことわざ

きゅうじゅうり

九十里を

なか

半ばとす

月 日

回目

- すらすらよめた
- なにもみずにいえた

月 日

回目

- すらすら よめた
- なにも みず に いえた

盆に返らず

ぼん

かえ

覆水

ふくすい

月 日

回目

- すらすら よめた
- なにも みず に いえた

高楊枝

たかようじ

武士は食わねど

ぶ
し
く

月 日

回目

すらすら よめた
なにも みず に いえた

ほとけつく
たましいい
仏作つて
魂入れず

月 日

回目

なにも みず に いえた
すらすら よめた

仏の顔も 三度
ほとけ かお

月 日

回目

- すらすら よめた
- なにも みず に いえた

骨折り損の くたびれ儲け

ほねお

ぞん

もう

月 日

回目

- すらすらよめた
- なにもみずといえた

ま
は
生えぬ
時かぬ種は
たね

月 日

回目

- すらすらよめた
- なにもみずないえた

ま
かいろ
ひより
待てば
海路の日和あり

月 日

回目

すらすら よめた
なにも みず に いえた

いえた

身から出た
み
で
さび
鋸

月 日
回目

- なにも みず に いえた
- すらすら よめた

魚 うお
水 みず
清 きよ
け け
れ れ
れ れ
ば ば
住 す
ま ま
す す

月 日

回目

すらすら よめた
なにも みず に いえた

百まで

ひやく

三つ子の 魂

み

ご

たましい

みの

実るほど

こうべ
た

頭を垂れる

いなほ

稻穂かな

月 日

回目

- すらすらよめた
- なにもみずないえた

月 日

回目

- すらすら よめた
- なにも みず に いえた

身を捨ててこそ
みすす
す

浮かぶ瀬もあれ
う
せ

月 日

回目

- すらすら よめた
- なにも みず に いえた

六日むいか
のあやめ
菖蒲あやめ
きく
十とおか
日とか
のとか
菊きく

月 日

回目

- なにもみずないえた
- すらすらよめた

ひ どうり
道理

むり とお
無理が通れば

ひこ
引っ込む